

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	広域幹線道路対応救助資機材整備事業			事業番号	18-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	消防本部	和田健一郎	消防総務課	森屋和則	

計 画 (Plan)

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	8	暮らしの安全を守るまちをつくる	
		施策	18	迅速で適切な消防・救急体制の充実	
予算事業名	消防本部・署施設整備事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	義務づけ規定がある	
事業開始年度	開始年度	平成28年度	～	終了年度	令和3年度
関連法令等	消防組織法、消防力の整備指針				
国・県の計画等	第二東海自動車道整備事業、厚木・秦野道路整備事業			計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	広域幹線道路の開通により、高速道路本線上における火災・救助・救急等の新たな消防需要の増加に対する確な対応が求められます。				
目的 (何をどうしたいのか)	新東名高速道路のトンネル災害に対応する資機材を整備します。また、高速道路本線上へ救助隊が出動中に、市域で発生する救助事案にも迅速に対応するための救助資機材を配備します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び道路利用者				
事業内容 (手段、手法など)	・新東名高速道路の開通を見据え、市域での救助要請に対応する救助資機材を整えとともに、トンネル災害対応資機材を整備します。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	広域幹線道路対応資機材整備	救助資機材整備	トンネル災害対応資機材整備	トンネル災害等救助対応	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
	救助資機材及びトンネル災害対応資機材の整備	—	平成30年度 機材整備	令和元年度 機材整備 整備完了	令和2年度 —



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	広域幹線道路の一部開通の延伸に伴い、トンネル災害対応資機材整備も来年度に延伸する。来年度に向け、計画している資機材等について再度精査を行う。				
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者		
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先		
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	広域幹線道路対応資機材整備	機材整備	整備資機材精査	整備資機材精査	
実施した取組の内容	トンネル災害対応資機材は計画どおり、令和3年当初予算に計上しました。				
目標の達成状況	【指標名】	年度			
		【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	救助資機材及びトンネル災害対応資機材の整備	—	機材整備	未実施	整備資機材精査

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計 (a)			6,750	千円		0	千円		0	千円		0	千円
内訳	国県支出金 ①		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	地方債 ②		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	その他特財 ③		6,750	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	一般財源 (a)-①-②-③		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
国県支出金の内容														
その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無				前回の改定時期							
	その他													
人件費	正規職員		0.04	人	340	千円	0.02	人	174	千円	0.02	人	172	千円
	その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	人件費合計 (b)		0.04	人	340	千円	0.02	人	174	千円	0.02	人	172	千円
トータルコスト (a)+(b)			7,090	千円		174	千円		172	千円		172	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	市民及び道路利用者				単位	市民及び道路利用者				単位	市民及び道路利用者	
		対象数	102,416	人		102,248	人		102,046	人				
	総事業費 / 対象数	69	円		2	円		2	円		2	円		

評 価 (Check)				
進捗状況 [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input checked="" type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	C	左記判断理由	広域幹線道路の一部開通の延伸に伴い、トンネル災害対応資機材整備も令和3年度に延伸する。令和3年度に向け、計画している資機材等について再度精査を行いました。
実施水準 [選択・記入]	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	県内における、広域幹線道路の開通に伴う影響は限定的であり、また各都市の消防力については、明確な比較は困難となっています。
有効性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	広域幹線道路の一部開通の延伸に伴い、トンネル災害対応資機材整備も来年度に延伸する。来年度に向け、計画している資機材等について再度精査を行いました。
効率性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	広域幹線道路の一部開通の延伸に伴い、トンネル災害対応資機材整備も来年度に延伸する。来年度に向け、計画している資機材等について再度精査を行いました。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	「伊勢原大山IC～秦野IC」の開通時期に合わせ整備をする必要があるため、工事の進捗状況を注視する必要があります。
令和3年度の取組方針	トンネル災害対応資機材を開通まで、間に合うように執行・整備をします。
所管部長による総評	精査した資機材について、伊勢原大山IC～秦野IC間の工事進捗状況に合わせ適切に整備を進めます。